

みんなの

しみサポ⁶⁴ 2023 Winter

#市民活動×福祉

七



- ・一般社団法人 ユニバーサルeスポーツネットワーク
- ・一般社団法人 福祉システム北海道
- ・特定非営利活動法人 あえりあ

ここが知りたい！市民活動Q&A

しみサポの本棚から

スタッフ推薦！しみサポ飯

お知らせ



#市民活動×福祉

市民活動は往々にして、行政や企業などの大きな主体が、さまざまな理由から「やらない」「出来ない」もしかするとまだ「気づいていない」けれど、この社会にとって絶対に必要な部分を担うもの。中でもとりわけその側面が強く表れるのが、「福祉」という分野ではないでしょうか。

今回はそんな「福祉」をテーマに、eスポーツを通じてスタートラインを引き直す団体、異業種からの学びを福祉に還元する団体、福祉における新しいプラットフォームを運営する団体をご紹介。福祉の立場から、市民の力を発揮する皆さんのお話を届けします。

写真=団体より提供

一般社団法人 ユニバーサル eスポーツネットワーク



eスポーツとは、ゲームの対戦を、スポーツ競技として捉えた名称。競技人口は世界で1億人を超えると言われており、その中には子ども、シニア、そして障がいをもったア



はじめに、団体設立の経緯を教えてください。

ここに入院している患者さんのほとんどは、病気や障がいによって、ゲームコントローラーを操作するのに何らかの工夫が必要な人たちです。私は、かれこれ24年くらい、障がいにあわせてコントローラーを改造するなど、作業療法の観点から彼らのサポートを続けてきました。一方で、病院の外からもそういういったサポートや情報を求める声は多く届きます。それに応え、外向けの活動も本格的に広げていくため、2020年4月から一般社団法人としての活動をはじめました。

なぜ、eスポーツに関してサポートを行なっているのですか？

それ実はよく聞かれるんですが、"eスポーツだから"とい

「ユニバーサル eスポーツネットワーク」は、そんなeスポーツを通じて人と人が出会い、分かり合える場の構築を目指して活動する団体。代表・田中さんの職場であり、団体の活動拠点にもなっている北海道医療センターにて、お話を伺いました。

患者さんがもとから大切にしていることを、続けるためのサポートだったんですね。

では、どんな課題に取り組んでいるのか教えてください。

病気や障がいでeスポーツを始められなかつたり、楽しめない理由は大きく2つあって、ひとつは当事者の身体的な条

件によるものです。生まれつき欠損があつたり、動かしにくい部位があつたりということで

うわけではないんです。患者さんに話を聞くと「身体が思うように動かせないことで、体育に参加できなかつたり、放課後に一緒に走り回って遊べず、なかなか友だちができなくて辛かった。でも、ゲームでなら競い合うことができ、自然と仲間になれた」という人が多くて。ゲームがあつたから救われた」と口にする人もいます。もともと患者さんがやっていた活動を、継続するためのサポートなんですよ。



写真=団体より提供



動かしやすい顎や指で操作。軽い力で扱える優れものです▲



▲自分に合ったコントローラー・操作方法で、大会での勝利を目指します！

すね。そうすると、コントローラーを手に持つて遊ぶことができなかつたり、力が弱くてボタンが押せなかつたりするわけです。その場合は、デバイスやその設置場所など技術的なサポートを中心に、その人の身体の状態に合わせた遊び方を一緒に探していきます。

なるほど。もうひとつは、どんなものですか？

情報が見つけられない、自

分に合った遊び方を選べる環境にないといった、当事者を取り巻く状況の問題です。情報はどうしたら届けられるかというのやはり大きな課題で。患者さんと協力しながら、活動の様子をホームページやYouTube上で発信しています。あと、力を入れて取り組んでいるのが体験会ですね。

ゲームやコントローラーを実際に体験できる場ということですか？

そうです。値段的にも、個人がいきなり買ってみようとはなりにくいですから、まずはお試しで。実際に触ることになりました。実際に触れるところにようして、本人にとつても周囲の人間にとつても「(できないと思つていたことが)できた」「できることが、わかった」という経験になります。特に、家族をはじめとする周りの人が、障がいの特性だけを見て「この子にはできない」と決めつけてしまつていることが多いのです。その子自身に何ができるかは、やつてみないとわからないので、まずは気軽に遊びに来てほしいですし、そういう機会をこれからもっと増やしていくたいと思っています。

団体名にもなっている「ユニバーサル」、これは「誰にとっても」という意味ですよね。ここまで挙がった対象者以外に向けた活動についても教えてください。

例えば、(障がいのない)プロeスポーツプレーヤーが故障してしまう大きな原因は、目や首、手首など、ある部位を使い過ぎることで炎症が起きる「オーバーアクション症候群」というもの。実は、障がいで体が動かしにくい患者さんや高齢者の方も、頑張ってコントローラーを操作しようとして

私が彼らのサポートをはじめた当時は、病気が進行して今より体が動かしにくくなつたら、ベッドに寝たきりであとはもう何もできない人生を送るんだって、諦めている方が多かつたんです。でも、この前患者さんと話していたら「そうなつたら、その状態に合った遊び方をまた相談

ありがとうございました！ それでは最後に、これからについての想いをお聞かせください。

不良姿勢が続いた結果、ある一部分に負担がかかり、同じように痛みが出てしまうケガが少なくありません。ゲームを楽しく続けるにあたって、気をつけるべきところは同じなんですね。そういう観点から、正しく無理のない姿勢について、セミナーを行ったりしています。



一般社団法人 ユニバーサルeスポーツネットワーク

話し手 田中 栄一さん

■ <https://uniesnet.com/>
■ info@uniesnet.com
■ @uniesnet
■ @uniesnet
■ @uniesnet

HP



しながら探すよ」と言つていて。技術の進歩によるところも大きいですが、少なくともここではこんなに意識が変わってきたんだって感じられて、うれしかつた。だけど、今でも一歩外へ出ると昔とほとんど変わらない状態ですね。それを何とかしたい。誰もが同じように、楽しい時間を共有できる社会を目指していきたいです。

一般社団法人 福祉システム北海道



動画「○福連携プラス」撮影の様子です▲



▲エルプラザ2階にて、介護新聞での連載「○福連携」を掲示中！

異業種からの学びを福祉に還元……？どういうことでしよう？

例えば、老人ホームなどの福祉施設で、頭を洗ったり、歯を磨くという介助は、主に介護職員さんが行うケアです。でも、一度（介護分野の）外に目を向けると、洗髪のプロ＝美容師、歯磨きのプロ＝歯科衛生士のように、それぞれのプロがいる訳です。各専門職からそのスキルを教えてもらうことで、ピンポイントでもケアの質が上がり、結果的に介助のスキルアップが元々の発想ですね。

なるほど！具体的にはどんな活動をされているのでしょうか？

もともとは演習メインの講習会を行っていましたが、「口福禍になり、それが難しくなってしまって。そのタイミングではじまったのが、介護新聞での連

「専門職は、異業種から学びを得ることで視野が広がる」そう話すのは、「福祉システム北海道」代表の高橋銀司さん。実は、日本医療大学で教鞭をとる社会福祉のプロです。現在、力を入れて取り組む「異業種から学びを福祉に還元」する活動についてお伺いしました。

○福連携に取り組む中で、気づいたことがあれば教えてください。

これまで、さまざまな業種の方にゲスト（講師）として出演いただきましたが、皆さん「仕事の中で、福祉や介護を感じることがある」と話してくださいるのが印象的です。どの業種からも学ぶことが多いというのが福祉分野からの率直な感想ですが、同様に、福祉から異業種へ与えられる学びや気づきもあるということです。よね。動画の構成としても、お互いの業種を身近に感じたり、接点を見つけるようなやりとりを心が

載「○福連携」です。「○」は異業種、「福」は福祉を表していて、「福祉分野からみた異業種との対話」が全体を通じたテーマとなっています。現在は、より多くの人に届けられるよう、「○福連携プラス」と題した月に一度の動画配信を中心に活動しています。



一般社団法人 福祉システム北海道

話し手 高橋 銀司さん

■ <https://fukushi-sh.net/>

✉ info@fukushi-sh.net

📞 011-838-8483

📺 @user-zz1fc7gj8l



写真=団体より提供

けています。5年10年と続けていく中で、他の業界に福祉の知識や観点が広まっていくきっかけになつていけばうれしいです。「福祉には正解がない」と教えてもうつたことがあります。でも、「正解」はなくとも、「不正解」は必ずやり続ける」といつか答える見つかることではないかなーとう信じて活動しています。しかすると、福祉の畠でどれだけ考へてもわからないから「他の専門職に聞いてみよう！」というものが、○福連携の本質だったりするのかも知れませんね(笑)

「福祉には正解がない」と教えてもうつたことがあります。でも、「正解」はなくとも、「不正解」はあると思うていて。「不正解をせずにやり続ける」といつか答える見つかることではないかなーとう信じて活動しています。しかしすると、福祉の畠でどれだけ考へてもわからないから「他の専門職に聞いてみよう！」といふのが、○福連携の本質だったりするのかも知れませんね(笑)



活動を行う代表の高橋さん(左)▲



▲介護予防イベント「ココカラ保健室」「ココカラ健康教室」でシニアにアプローチ

「逆のことを書くのですが、資格はその人が持つ引き出しのひとつに過ぎないとも思っていいんです。だから、それまで経験してきたことや好きなことと掛け合わせることで、その人にしかできないサービスができるんじゃないかなって。この業界に限らずですが、働いていて自分だからできる」と感じら

専門的な知識や目線を持つ
つているからこそ、気づけ
ることもありますもんね。

障がないをもつ方やそのご家族が利用者（リクさぽ）として登録し、「病院に付き添つてほしい」「お留守番をお願いしたい」など日常のちょっととしたお手伝いをリクエストします。それに対し、登録した有資格者が手を挙げる、というのが基本の流れです。

公的な制度や既存のサービスでは満たしきれない「ちょっと手伝ってほしい」と、医療・福祉の資格をもった人の「すきま時間で手伝える」を繋ぐ、福祉のマッチングサービス「さぽんて」。生みの親である代表・高橋亜由美さんにお話を伺いました。

さぽんての仕組みを教えて
ください。

れることってなかなかないと思うので、すぐ貴重な経験にならると思っています。

だけの仕組みではないんですね！

さぼんての活用を展開することで、医療・福祉・介護のすき間を埋めていきたいと考えています。職種として似通つた点も多いはずなのに、現場にいるとすごく分断を感じるんです。制度の外側には選択肢がたくさんあることが大事だと思っていて。さぼんてをそのひとつとして認知してもらうことが目標です。



それでは最後に、これからについてお聞かせください！

はい。シニア世代にも活動を広げていきたいくて、介護予防イベント「カラ」をはじめました。スタッフはさぼメンから募っていて、顔が見える関係性を築けるのがポイントです。世代や職種を超えた交流の場にしていただけたらうれしいですね。

特定非営利活動法人 あえりあ

話し手 高橋 亜由美さん

✉ contact@aeria-npo.org
🐦 @saponte_aeria
🌐 @aeria.2021
📷 @saponte_aeria



写真＝団体より提供

ここが知りたい！ 市民活動 Q & A

インボイス制度
について
質疑・応答形式で
解説します！

Q インボイス制度とは、どのような制度ですか？

A 事業者間の取引において、売手と買手がインボイスにて、いくらの消費税をもらった・払ったかを正確に確認し、申告・納税する制度です。「インボイス」とは、売手が買手に対して、正確な消費税率や消費税額を伝えるための請求書や領収書等のことです。正式には「適格請求書」といいます。なお、インボイスを発行するためには、インボイス発行事業者（適格請求書発行事業者）としての登録申請が必要になります。



Q 具体的に何が変わるのでですか？市民活動団体にも、影響はありますか？

A インボイス発行事業者になると、消費税の課税売上高が年間1,000万円以下の免税事業者であっても消費税の申告が必要となります。市民活動団体も、取引先等からインボイス発行事業者であるか否かの確認を求められることも予想されます。

Q いつから始まりますか？

A 令和5年10月1日から始まります。開始時までにインボイス発行事業者になるためには、原則として、令和5年3月31日までに登録申請する必要があります。なお、インボイス発行事業者になるかは任意であり義務ではありません。また、いつからなるのかについても事業者が任意に決めてかまいません。

Q どんな準備が必要ですか？

A 取引先等に今後インボイスが必要になるかを事前に確認し、もしインボイス発行事業者になる場合には、請求書等の様式や経理処理の変更の有無、どの程度の納税額になるのかなどを検討しておいた方がいいでしょう。



相談員プロフィール

瀧谷 和隆

瀧谷和隆税理士事務所代表・税理士。
認定NPO法人NPO会計税務専門家ネットワーク
理事兼事務局長。



ファンをはぐくみ事業を成長させる
「コミュニティ」づくりの教科書
藤田祐司・河原あず 著 ダイヤモンド社/2020年

イベント・コミュニティづくりのプロであるおふたりが、自身の経験から得たノウハウを詰め込んだ、まさに教科書のような一冊。コミュニティづくりに主軸を置くことで、単なる方法論ではなく、その先で何を目指すのか考える癖がつけられます。また、リアル開催からオンライン配信に切り替えた時の対応や、延期・中止を決めた時に参加者とどうコミュニケーションを取るかなど、コロナ禍でイベントやコミュニティの在り方が変化した今だからこそ知っておきたいあれこれも充実。本書を通じて、今一度コミュニティのもつ力を見直してみませんか？



マイノリティデザイン
—弱さを生かせる社会をつくろう
澤田智洋 著 ライツ社/2021年

「マイノリティデザイン」とは、すべての人の中にある「苦手」や「できないこと」を、克服するのではなく生かすことで社会をより良くすること。バリバリの広告マンだった著者はなぜ福祉の世界に飛び込み、いかにしてその考えにたどり着いたのか。そして、実際に自分の「弱さ」＝運動音痴を起点に「ゆるスポーツ」をつくりあげる過程まで、すべての考え方と実践方法が書かれています。社会の抱える課題がますます複雑化し、解決の糸口がみづけにくい今日。それでも社会を前に進めていくために、市民活動が大切にしたい心意気が詰まった一冊です。

札幌エルプラザ情報センターのご案内

札幌エルプラザ1階にある情報センターでは、市民活動、男女共同参画、環境、消費生活に関する書籍や映像を閲覧したり、借りたりすることができます。
マークのついているものは、情報センターで借りることができます。

■お問い合わせ / 011-728-1223

■開館時間 / 9:00~20:00

■貸出時間 / 9:00~19:45



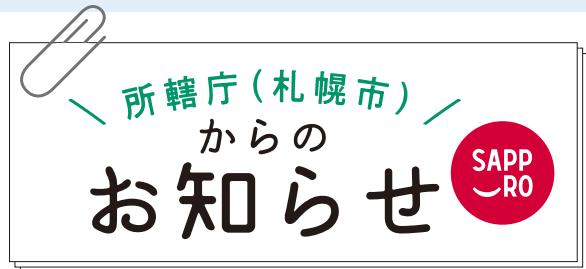
ひきこもり×在宅×IT=可能性無限大!
株式会社ウチらめっちゃ細かいんで
佐藤啓 著 あさ出版/2020年

株式会社ウチらめっちゃ細かいんでは、れっきとした会社組織でありながら、ひきこもり者の自助グループとしての機能を併せもつ「日本で初めての、ひきこもり者主体の株式会社」。「必ずしも家から出る必要はない」という前提のもと、ひきこもり者がもつ強み弱みを活かしながら、ビジネスとして一定の成果を上げるという、ある種の社会実験的な取り組みは、組織形態の垣根を超えた新しいマネジメント手法としてとても勉強になりました。上で紹介した『マイノリティデザイン』を読了後に読むと、より理解が深まるのでおすすめです。

市民活動のヒントになるスタッフおすすめの書籍やDVDを紹介します

しみサポの本棚から





お問い合わせ先

札幌市市民文化局市民自治推進室 市民活動促進担当課
〒060-8611
札幌市中央区北1条西2丁目
☎ 011-211-2964 ☐ shimin-support@city.sapporo.jp

国税庁 令和5年10月から
消費税インボイス制度が始まります。

**消費税
インボイス
制度**

**登録を予定されている事業者の方へ
登録申請はお早めに!**

**登録申請手続は、
かんたん・便利♪
e-Tax** をご利用ください!!

説明会を開催中

制度について詳しくお知りになりたい方は、
国税庁ホームページ(<https://www.nta.go.jp/>)の
「インボイス制度特設サイト」をご覧ください。

登録申請手續は、「e-Taxソフト(WEB版)」をご利用いただくと、質問に回答していくことで申請が可能です。
e-Taxで申請した場合、電子データで登録通知の受領が可能です。
個人事業者の方はスマートフォンからでもe-Taxで申請できます。
※e-Taxのご利用には事前にマイナンバーカードの取得が必要です。

税務署での説明会やオンラインでの説明会をご案内しております。
説明会ページへ

特設サイトへ

特設サイトでは

①制度の解説動画
②AIを活用したチャットボット
③軽減・インボイスコールセンターなどご案内しております

NPO法人を対象とした事務力強化セミナーを行います!

令和5年2月14日にインボイス制度、改正電子帳簿保存法、NPO法人会計基準に関するNPO法人対象の事務力強化セミナーを行います。ぜひご参加ください。

札幌市ホームページ

NPO法人事務力強化セミナーを開催します。



国税庁ホームページ

インボイス制度
特設サイト

インボイス制度の
説明会



市民活動サポートセンター からの
お知らせ

市民活動相談
活動経験豊富な「さっぽろパブリックサポートネットワーク」のメンバーがご相談にお答えします。

毎週火・水・金曜日	15:00～17:15
第1・2木曜日	16:45～19:00

※税務・会計相談、法律相談は事前予約制です。予約は相談日の一週間前までにお願いいたします。

相談窓口のごあんない

市民活動・NPOのさまざまなお悩みに相談員がお答えします。
すべての相談は無料です(1回30分～45分程度)。

市民活動相談

活動経験豊富な「さっぽろパブリックサポートネットワーク」のメンバーがご相談にお答えします。

毎週火・水・金曜日	15:00～17:15
第1・2木曜日	16:45～19:00

法律相談

「NPOのための弁護士ネットワーク」の弁護士が市民活動団体・NPO法人運営に関する法律のご相談にお答えします。

第3木曜日(4～9月)	13:00～15:00
第3木曜日(10～3月)	10:00～12:00

税務・会計相談

北海道税理士会所属の税理士が法人会計などのご相談にお答えします。

第4木曜日	15:00～17:00
-------	-------------

※第4木曜日が祝日等の場合変更あり

「しみCube」好評受付中!

個人用オンラインブース「しみCube」の利用がスタート! 団体登録されている方なら誰でも、1時間500円で最大3時間まで連続して使用できます。周りの音を気にせず、WEB会議も快適! ご予約は窓口orお電話にてお待ちしております!



事務ブース入居団体募集中!

センターでは、支援の一環として市内を中心活動する団体を対象に簡易な事務スペースの提供を行っています。設備や申込の詳細については、センター窓口までお問い合わせください。見学も受付中です!

＼スタッフ推薦！／ しみサポ飯



過去イチバンの近所?
カレーとカレーうどんの店「UZU」^{うず}

寒くなると外に出るのも億劫になりがちですが、寒い日に食べると一層美味しい食べ物ってありますよね。だけどやっぱり、極力外を歩く時間は短くしたい……。そんな時にぴったりなのが、今回ご紹介するお店「カレーとカレーうどんの店 UZU」です。

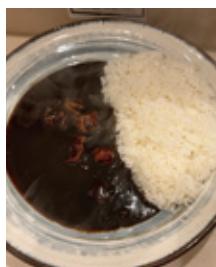
お店までは、エルプラザから歩いて2分。食券を買って引き戸を開けると、カレーのいいにおいが食欲をそそります。おすすめはやっぱり、カレーうどん。「札幌でカレーうどん文化を作りたい」という店長さんの熱い想いとこだわりが詰まったこのうどんは、もっちりとした麺に、スパイスと出汁が溶け合ったまるやかなルウ(スープ)がよく絡みます。脇を固めるのは、肉厚なお揚げとホロホロの鶏肉。お揚げがまた美味しいくて、シンプルだからこそ何度も食べたくなる、味わい深い一杯です。

開店から16時までは、ライス大盛無料・うどんに小ライスを付けてもらえるうれしいサービスも。エルプラザにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください!



しみサポ飯
とは

食べることが大好きなしみサポのスタッフが、センターに近い飲食店をご紹介するコーナーです。



右:こぢんまりとして、あたたかみのある店内

左:各種辛口カレーは、パリッとキレのある辛さが◎

カレーとカレーうどんの店 「UZU(うず)」

札幌市北区北8条西3丁目13-8

📞 080-6909-1407

営業時間: 11:00~20:30

(日曜のみ 11:00~14:30)

🐦 @uzusapporo



編集後記

64号のテーマは“福祉”。福祉という文脈の中で語られた途端、普段はほとんど同じ意味として使われる言葉たちから、全く違う印象を受けるということがよくあって、いつにも増して言葉ひとつひとつと真剣に向き合った号でした。ぜひ細かなところにまで目を向けて、その言葉を選んだ団体さんの想いを想像してもらえたなら、と思っています。
(記. 國行)

札幌市市民活動サポートセンター

(指定管理者: 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)

〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目
札幌エルプラザ公共4施設2階

📞 (011) 728-5888 📎 (011) 728-7280

アクセス: JR札幌駅北口より徒歩3分
(札幌駅北口地下歩道12番出口横から直通)



<https://www.shimin-sl-plaza.jp>



<https://www.facebook.com/shimin.sl.plaza>

YouTube

<https://www.youtube.com/channel/UCIEjvmHDSRhG3aOP2648Y4g>

